

東日本大震災において 夫を津波で奪われた 遠藤和美さん

「東日本大震災/宮城は「いま」2022 遠藤和美さん1
夫を津波で失った遠藤和美さん(女川町在住)からの聞き取り

*遠藤さんと盈進は2011年7月からつながっている。

Q1. 震災から11年、今の心境は?

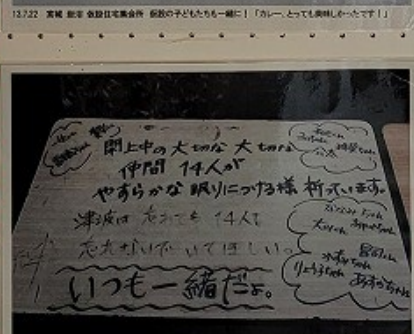
3月1日が近づいてくると、何年たってもやっぱりさみしくて、悲しい気持ちになりますね。そして、あの震災のことが、いろいろなかたちで蘇ってきます。

Q2. 変わらないこと〜月1回のお墓参り〜

11年経っても、毎月ずっと欠かさず(夫・信行さん)のお墓参りに行っています。現在暮らしている女川(宮城県北)からお墓のある岩沼(宮城県南)まで約100km離れています。

でも、お盆やお彼岸だけのお墓参りでは気持ちがおさまらないのです。いつもお父さんに会いたいです。だからやっぱり、お父さん(夫・信行さん)のそばに行って、お墓に手を合わせ、お父さんと直接話したいんです。そして必ず最後は、「お父さんまた来るからね」と、それを言って帰ります。

生きていることが当たり前前ではないとい



「東日本大震災/宮城は「いま」2022 遠藤和美さん2(つづき)

Q3. 変わったこと〜お父さんがなくなってまもなく11年〜

お父さん(夫・信行さん)が亡くなった頃は、辛くて泣いてばかりでした。それは今も変わりません。仕事で何かあったり、人間関係が辛かったりすると、お父さんのことを思い出して、どうしても涙が出てくる。「生きていたら、いろんなこと言ってくれるんだろうなあ」とか思っちゃうんですね。

今、被災した岩沼から、女川という町に引っ越して暮らしています。もう7年が過ぎました。早いんですね。暮らしの変化で、少しずつ、いろいろと感じ方が変わってきたかな。今は「生かされたいのち」だから、「生きなきゃ!」って思っています。

Q4. 今、震災の教訓は現在に活かされているのか

いくらかは活かされていると思います。でも、実際に体験しないと分からないこともたくさんある。風化が一番怖いですね。ただ、防災グッズや避難する時にいるものをテレビで見かけることがあります。阪神淡路大震災とか東日本大震災があったからこそですね。災害の教訓が活かされていることだと思います。

